

【日時】

令和6年10月31日（木曜日） 17:30～19:00

【委員】＊順不同・敬称略

赤木 功 （学校関係者評価委員長 特定非営利活動法人 NAC 副理事長）  
 井出 由起子 （地方独立行政法人りんくう総合医療センター 副病院長 兼 看護局長）  
 濱田 眞由美 （社会医療法人生長会 専門学校 ベルランド看護助産大学校 副学校長）  
 山本 好男 （大阪府立日根野高等学校 校長）  
 一木 眞紀 （泉佐野市健康福祉部 健康都市推進担当 参事）  
 南 智子 （IS 太陽 会長）

【重点目標の評価】

I. 教育内容の発展と強化

I-1 新カリキュラム学生の全員国家試験に向けた取り組み

取り組み	①実習時間に国家試験対策を盛り込む ②1月末の全国模試の受験者個人評価が全員C評価以上である ③国家試験に向けた個別のメンタル支援を実施する
結果	①実習毎に国家試験問題に取り組むことが出来ている。 ②現時点では不明 ③低成績者に対して、登校日に積極的に声掛けをし、学習支援をする。 12月の時間割を調整し、実習終了後から国家試験に専念できるように調整
質疑応答	Q: 実習期間に過去の国家試験問題を解くのか。実習時間内に実施するのか。また受け持ち患者の病態の問題を解かせているのか。 A: 国家試験の過去問題や領域担当が作成したオリジナル問題を実習時間内に実施している。例えば、地域・在宅看護論実習では、学内オリエンテーション日と後半の学内実習日に100問を30分で解く時間を設けている。実習の学びにつながる、身につく学習方法について、常に考えている。 Q: 高得点をとれるというのは、定義を理解するためにしているのか。 A: 実習前後の比較はできていない現状。問題は実習に必要な内容を選定している。実習を経験しながら解けるようになって考えている。

I-2 新カリキュラム各論実習の取り組みと看護技術達成度向上に向けた取り組み（報告者:上野）

取り組み	コンセプトに基づくカリキュラムでの臨地実習の取り組み
結果	①出席率の上昇 ②技術経験回数と項目の増加 ③実習評価でクラスの平均点の上昇
質疑応答	Q: 学生が多様化し、実習における学生自身の満足度が高いと休まないという現状である。良い実習で満足度が上がるのはよいと思う。しかし、臨床がそうとは限らないのではないか。大学ノートの活用など、学校が考える方向性と臨床の違いで困ったことはないか。

	<p>A: 学校と臨地が目的の共通理解をしなければならないと考えている。臨地実習指導者を招いた合同学習会を開催し、コンセプト学習の理解を深め、協力体制ができてきた。指導者には学生の日々の実習計画発表を聞いてもらう。学生は、その日の実習目的、行動計画、留意点を口頭で説明するか、もしくはノートに書くようにしている。安全性を確保してから援助を実施しているため、インシデントや事故報告書は少なくなっている。実習がすすむにつれて、6Pの実践で本校の理念である「優しく愛のある看護」に近づいてきている。学生間の格差はあるが、安全性について問題があった事例報告はなく、患者から感謝の言葉もいただいている。学習ノートは自由記載であるため、カットアンドペーストの傾向が出始めたため、学習の補強に国試問題を実施することにした。</p> <p>C: 学生の勝手な自己満足ではなく、資料のグラフは統合された結果ではないか。また、学生は勉強しているのではないか。</p> <p>C: 学生が記録を自由に書けることは、学校側の学生への信頼度は高くないとできないことではないか。</p> <p>C: 新カリキュラムの成果が明確にでてきているようなので、この成果が臨床までつながるような連携を今後は構築させていただきたい。</p>
--	--

## II.受験生の確保

### II-1 受験生の確保に向けた広報活動の強化 (報告者:久岡 DX 担当責任者)

<p>取り組み</p>	<p>①公式インスタグラムの投稿を増やす ②学生の SNS クラブ発足 ③ホームページのリニューアル ④オープンキャンパスの回数を増加</p>
<p>結果</p>	<p>①昨年の投稿数49⇒今年は107件、フォロワー142⇒285、リーチ1000超 ②学生の SNS クラブが考えた学生目線での情報の発信 ③ホームページのデザイナーを20代の若いデザイナーに変更し若者にアピール ④オープンキャンパス1回/年⇒3回/年に増加し、目標値の120人を達成</p>
<p>質疑応答</p>	<p>Q: 学校の存在を知ってもらうことが重要でまだできることがあるのではないかと。SNSの活用は素晴らしいが、インターネット検索をしても本校がヒットしない。学校サイトなどのネット上の口コミが大切ではないか。</p> <p>A: インターネットサイトは、契約料金を支払う学校が上位検索できるシステムである。そのため学生や卒業生の口コミがそのまま反映されない現状にある。もっと別の手段による SNS の活用を考える必要がある。</p> <p>Q: ネット上の口コミよりも、実際の地元の口コミのほうが大切ではないか。</p> <p>A: 卒業生や在校生の子弟や親族、実習施設の看護師の家族や友人の受験が増加しており、既に口コミは多い方であると認識している。</p> <p>Q: 本校は、指定校推薦はしていないが、高校にとってはどうか。</p> <p>A: 特に現在の高校生にとって指定校推薦は最大のメリットである。早くに進路が決まるため、指定校推薦を希望する学生が増えている。</p> <p>Q: 大学受験者が増え、指定校推薦がなければ学生が集まらない学校もあり、大学の看護学部の指定校推薦も増えている。ここから先、専門学校は何で戦っていくのか、また</p>

	<p>学生の満足度が勝負になるのではないかと。高倍率は難しく、併願受験辞退は痛手になるので確実な受験生に焦点をあてる必要があるのではないかと。</p> <p>A：全国の医師会立看護学校が閉校している現状がある。本校は、地域に貢献する学校であるが、やはり少子化により学生確保は年々難しくなっている。</p> <p>Q： 大学ではOBが母校訪問している。OBと学生がLINEを交換するなど、OBとどうつながかを視野にいれてもよい。学校説明会にも卒業生が参加してはどうか。</p> <p>A：もうすでにオープンキャンパスや高校へのリクルートなどに卒業生は参加してくれているが、LINE交換するほどは繋がっていないのが現状。</p> <p>C：看護系に進学する学生は、泉州地域の子どもたちで、あまり市外へ出たがらない傾向で、地元で就職したい学生が多い。指定校推薦を希望する学生は増加している。</p>
--	--

### III.組織改革

#### III-1 自己点検・自己評価の報告、IV財務基盤を含む

取り組み	自己点検評価委員会での評価内容	財政基盤の強化																								
結果	<p style="text-align: center;">令和6年度自己点検結果</p> <table border="1"> <caption>令和6年度自己点検結果 (Radar Chart Data)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>スコア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>I 教育理念・目的・人材育成</td><td>4.35</td></tr> <tr><td>II 学校運営</td><td>3.22</td></tr> <tr><td>III 教育活動</td><td>3.33</td></tr> <tr><td>IV 学修成果</td><td>3.32</td></tr> <tr><td>V 学生支援</td><td>3.46</td></tr> <tr><td>VI 教育環境</td><td>3.25</td></tr> <tr><td>VII 学生の受け入れ募集</td><td>3.75</td></tr> <tr><td>VIII 財務</td><td>3.35</td></tr> <tr><td>IX 法令等の遵守</td><td>3.11</td></tr> <tr><td>X 社会貢献・地域貢献</td><td>3.33</td></tr> <tr><td>XI 国際交流</td><td>3.33</td></tr> </tbody> </table>	項目	スコア	I 教育理念・目的・人材育成	4.35	II 学校運営	3.22	III 教育活動	3.33	IV 学修成果	3.32	V 学生支援	3.46	VI 教育環境	3.25	VII 学生の受け入れ募集	3.75	VIII 財務	3.35	IX 法令等の遵守	3.11	X 社会貢献・地域貢献	3.33	XI 国際交流	3.33	<p>泉佐野市に協力を求めふるさと納税の応援プロジェクトに本校への支援を候補項目に入れていただくことができた。</p>
項目	スコア																									
I 教育理念・目的・人材育成	4.35																									
II 学校運営	3.22																									
III 教育活動	3.33																									
IV 学修成果	3.32																									
V 学生支援	3.46																									
VI 教育環境	3.25																									
VII 学生の受け入れ募集	3.75																									
VIII 財務	3.35																									
IX 法令等の遵守	3.11																									
X 社会貢献・地域貢献	3.33																									
XI 国際交流	3.33																									
質疑応答	<p>C：ふるさと納税で“看護学生応援プロジェクト”は、その他の25項目の中から選択してもらう形になるので、どのくらいの方が選択して下さるかによって納税額が異なるので、地域でも協力させていただく。</p> <p>Q：社会人入学生の確保が必要。入学生の若年化で、社会人がいないとリーダーシップが図れないなど、クラスの課題が変わってきている。貴校で直視していることを教えていただきたい。</p> <p>A：以前は社会人が半数以上の学校であったが、現在、社会人は少数派になっている。新卒者の中には「教育はサービスである」と捉えている学生もいて、教員と学生の教育に対する価値観のズレがあると捉えている。</p> <p>A：そもそもコロナもありいろいろな体験そのものが少なく、特に相手の立場になって考える必要がある体験も不足しているのかもしれない。科目の中のレポートやいろいろな体験を通して、学生も日々変化してきているので、諦めずに真摯に向き合って教育し見守っていききたい。</p>																									

以上